コミュニティのミライを考える

草加西部地区 こんなまちになったらいな

地区別懇談会

の記録

ログラム

1. 開催にあたって

2. 意見交換

ワークショップ(1): 重要な『地区のミライ』を考えよう

ワークショップ②:『地区のミライ』を実現するための

取り組みを考えよう

3. 検討結果の発表

4. 閉会・次回のご案内

日時

: 令和4年6月3日(金)

18:30~21:00

場所

:氷川コミュニティセンター集会室

参加者数:25名

当日の様子









選んだ理由等

ワークショップ①:重要な『地区のミライ』を考えよう の記録

ワークショップ①では、第1回地区別懇談会の検討結果を踏まえ、各班(A~E班)で、特に重要だと思う『地区のミライ』を選び、

選んだ理由について意見を出し合いました。

<移動・交通・歩行空間>

地区のミライ

地区のミライを 選んだ班

■歩きたくなるまち

C D E

- ・ハード面では、標識や道路形状の工夫。ソフト面では、交通ルールを守ることが大事である。
- ・健康のためには外に出て、人と会うことが大事である。
- ・今の散歩道はベビーカーにやさしくないと思うから。

■交通や防犯面で安全なまち ――

A C D

- ・現状は街灯が少ないので、夜も安心できる街にしたい。
- ・安全であることは、住まいを決めるうえで一番大事なことだから。

■楽しめる快適な道づくり ――

A B C

- ・無機質な道路を、楽しめる、安全快適な道路に改良したい。
- ・桜並木など、楽しく歩ける散歩コースは貴重な地域資源である。
- ・緑の小道は住宅の軒先を抜けるような狭い道もあり、他人の生活が目に入るため、プライバシー の確保を意識した設えにしていきたい。
- ・駅までの通勤や通学が多いので、毎日のまちの風景を楽しめるようにしたい。

■安心して歩けるまち ――――

B D

- ・急な雷雨などに駅前まで濡れずに歩けるよう、駅の高架下が遊歩道のように整備されるとよい。
- ・アスファルトは固いので、歩道はそうか公園のようにタータンになるとよい。
- ・抜け道が多く、狭い道でも車がスピードを出している。安全で便利な交通網の整備により、生活し やすくなる。
- ・歩きやすい道や、通りやすい自転車道など、散歩コースを整備したい。
- ・歩きたくなるまちの前提として、安心して歩けることが大事だから。
- ・幼児、子どもの交通事故を減らしたい。そして、安心して子どもが遊べる場所が欲しい。道路空間 を単なる車の移動のためではなく、人が安心して往来できる場所にしたい。

■安全・便利に使える交通網の整備 -

Α

- ・歩車分離、安全性の確保
- ・歩いて心地よい道を整備したい。
- ・草加は交通事故が多いから。
- ・横断歩道、白線がはがれているところが多い。視覚的な歩者分離が必要。

※上記「選んだ理由等」の内容は、ワークショップで出た意見を一部抜粋・要約し、掲載しています。

<みどり・景観・農業>

■緑化推進と景観を守る ――

B D E

- ・景観を守るというより、歩いて楽しめる道や公園、水路や緑を充実させたい。
- ・緑を見ながら散歩して楽しい、満足できるような道、公園整備が必要。歩くことで健康につながる。
- ・各戸の塀を緑化することや、植栽を促進したい。
- ・景観を軸に「住みやすさ」の空間を生み出す(農業、緑、アート、電線の地中化等)
- ・草加は松並木が代表的。各地区の遊歩道に街路樹を植えて。地域の人々で緑を楽しむ。

■緑のある景観づくり ――――

D

- ・四季を感じることができる。鳥が来て、花が咲いている景観。
- ・木陰ができて涼しく、うるおいが生じる。

■みどりや景観を守る ―

СС

・草加の緑地を活用し、みんなで芋づくりなどをしたい。緑地を活用し、路地野菜を栽培する。

<防災> -

■災害時も安心なまち ―

A B E

- ・高年者の方も避難できるような地域づくりが必要。
- ・河川の逆流など、風水害への防災対策が必要。
- ・ハード面では一時避難場所や本部機能の充実、ソフト面では若い人も入れる防災システムの充実など。
- ・若い人が地域活動に参加してくれることが必要。防災をテーマにすると、若い人の関心が高い。
- ・消防車が通れない狭い道路が多いから。

■IT の活用 ―

B D

・情報が早く回るには、ITの活用が必要。交流の場を検索したりできるとなお良い。また、個人だけでなく、拠点でも情報を確認できると良い。利用可能な施設の情報を手軽に入手したい。

<歴史・文化>

■愛着を生む伝統や行事の継承・発展 -

A D

- ・神社やお寺等の旧跡があるので、それらを活かせるとよい。
- ・地域にある、放っておかれているものを活用していきたい。
- ・子どもが地域に愛着を持つことができれば、大人になっても地元に関心を持てると思う。浴衣をキー ワードに、産業との繋がりが生まれる可能性もあるのでは。

<子ども・子育て> ——

■子どもが笑顔で安全に暮らせるまち -

ВЕ

- ・子どもは未来を支える柱である。
- ・昔よりも子ども会の活動に参加してくれる方が減っている。子どもが楽しめる場をつくりたい。でき れば子ども達が自主的につくれるとよい。
- ・ママ友が集まりやすい環境づくり。子どもが騒いでもよい場所として、空き家の活用などで地域の場づくりにつながるとよい。
- ・昔よりも駄菓子屋や外で遊べる場所が減った印象がある。子どもが楽しめる場が増えるとよい。
- ・子どもが集まって、大人も集まる場所。子どもが遊べる自然型の公園。
- ・子どもが自分の力を生かせる場を作る。(手伝い過ぎないで挑戦を見守る)

■子育てしやすく、子どもが安心できる環境 ――

CD

- ・子どもの姿、声がまちのにぎわいや交流、活性化をもたらしていると思う。
- ・人口構成が若い地区→まちに愛着をもってもらい住み続けるまち。
- ・子どもや親子で遊べる公園が少ないので整備してほしい。
- ・定住していただくためにも子育て支援は大事である。

<交流>

■地域の交流・コミュニケーションの取り方を再検討する - B D E

- ・リタイア後に地域に関わろうと思っても情報が入ってこない。交流の場と、その情報を届けることが 必要。広報だけでなく SNS の活用なども。
- ・若い人向けに「回覧板」をデジタルで発信してはどうか。町会の加入も促すことができる。
- ・若い人は交流の場を探している。
- ・独居者が増えているので、1人にならないように人との交流が大事。気軽に集まれる場を近所に。
- ・誰を軸として将来像を描くか(今いない人を含めて交流できる場)も構想すべき。

■気軽に地域の人とつながれる場があるまち -

A B C D E

- ・お店の一部を活用したコミュニティ施設。実際にやっている人がいるが、小さいお店でも賑わっている。
- ・高齢になり引きこもりがちになった時、人との繋がりがより必要になる。一人暮らしの高年者も増えていく。孤独死の防止のためにも、隣近所の人とつながる場が必要。
- ・犬を飼っている人同士が散歩や交流をできるといいのでは。
- ・子ども食堂を進化させた「地域カフェ」をつくる。地場野菜を用いて、食育、交流、情報発信をする。
- ・町会、民生委員、すこやかクラブ等の連携により、地域の交流と地域の問題点を解決する。

■人と人が交流しやすい場所、機会があるまち

B

- ・愛着をもって住み続けたいと思えるようになるにはふれ合う場が必須である。
- ・地域共有の場づくりや、情報共有が重要。

■支え合いつながるまち -

A B D

- ・高齢化、少子化の課題解決をボランティアで(例:大学生や児童館へ来る学生など)
- ・空き家が増えている。空き家を活用し多世代の集える場にしたい。
- ・一部の人だけでなく、皆が少しずつ役割をもって運営に関わることで、持続可能な仕組みが必要。
- ・コミュニティの発達は、防犯上、防災上も効果的である。

<生活環境> ─

■多世代のひとがずっと住み続けたいまち ―

A B C

- ・働く場所があるとよい。農業をやりたい人の場所など。
- ・高年者の移動手段の確保や、生活環境づくり、安心して生活できるまちづくりが大事である。
- ・町会に入ってもらい、多世代で行事、祭りに参加することが大事である。
- ・この地域に人が住み続けるために、将来の変化にも対応できるようにしたい。
- ・サスティナブルなまちを作っていくには、特定の人だけでなく多種多様な人たちが住み続けたいと思えることが必要。西部地区は住んでいる人が多様である。(多世代、昔から住んでいる人、新住民等)。

■人と人が交流しやすい場所、機会があるまち ―――

В

・人と人との繋がりを、ずっと維持していきたい。地域の人がつながる場づくりを実現したい。

<にぎわいづくり・活性化>

■地区の名物のPR ———

・神社や川、店舗、子どもの多さなどの、西部地区の地域資源を活かしてはどうか。

■地域の活性化、産業、経済、振興 ――

A C D

- ・リノベ物件を活用した地域活性化のためのプラットフォーム作り。
- ・地域経済の活性化を通じて色々な可能性が生まれてくる。
- ・商店街や企業、農家など、様々な資源があることから、それを生かした地域の活性化、産業・経済・ 復興のにぎわいづくりができるといい。
- ・農業体験ができるまち。先進地に行ってみたところ、コミュニティが盛り上がっていた。体験だけで なく、座れる場所を設けて、交流を促していた。
- ・良い活動であっても、マネタイズしないと続いていかないから。

■地域住民の皆さんの課題解決の場をつくる ――

B D E

- ・課題解決の場から出てきた困りごとをきっかけに仕事を生み出し、自分らしい人生を送る、まちづくりへと繋げたい。
- ・出てきた困りごとや要望は変化していく。それらを叶える方法を考えていくことが大事。
- ・地元での情報を一元化する。
- ・様々な地域課題や社会課題について、自分と異なる問題意識を持つ人と意見を出し合う場が必要。

■多世代交流のできるまち ――

A B C D

- ・高齢化、少子化は今のキーワードのひとつだと思います。
- ・人口も多く、若者も多いので夜間でも使えるコミュニティセンターがあると住みやすくなるのでは。インターネットや学習室、図書館機能などがあり 24 時間使える拠点となるような場所がほしい。
- ・所属関係なく好きな時に、好きなもの・こと・共通の話題で誰でも交流できるまちづくりをしたい。例えば公園で共同のペットを皆で世話するなど。
- ・既存の組織にとらわれずに、共通の好きなものに、好きな時に寄り添って集まる。
- ・多世代交流の方法として、草加桜のような名物の植物を配り、皆で育て、共通の話題を共有する。
- ・多くの人が住んでいるので、多様な交流が盛んなまちになったらいい。(多世代、多国籍)
- ・外国人労働者が増えており、共存協力していく仕組みをつくることが大切と思うから。

ワークショップ②:『地区のミライ』を実現するための取り組みを考えよう の記録

ワークショップ②では、①を踏まえ、『地区のミライ』を実現するための取り組みについて、意見を出し合いました。このページでは取り組みのタイトルのみ掲載しております。各取り組みの詳しい内容は5ページ目以降をご確認ください。

テーマ1. つながり・支え合い

- 1-1 ボランティアの仕組みづくり
- 1-2 リタイア世代による子どもスポーツ教育の支援
- 1-3 様々な社会課題の解決に向けた議論の場づくり
- きれいなまちを目指した夜のゴミ回収

テーマ2. にぎわい・交流

- 2-1 公共空間を活用した定期的な市場の開催
- 2-2 ペットをきっかけにした地域交流「おてがるドッグラン」
- 2-3 SNS を活用した『草加西部地区』の魅力 PR
- 2-4 IT を活用した、公園や空き地の情報発信
- 2-5 多世代によるスポーツや遊びを通じた交流会
- 2-6 文化交流と産業振興のための英会話イベント
- 2-7 各町会の交流に向けた大盆踊り大会
- 2-8 新たなビジネス創出のための多分野連携マルシェ

テーマ4. みどり・景観

- 4-1 みどりあふれる安全な歩行者空間づくり
- 4-2 景観 UP にむけた地域を巡るウォーキング運動
- 4-3 各所の緑化運動を展開したウォーキングルートづくり

テーマ5.農業

- 5-1 育てた野菜で地域交流「自給自足バーベキュー交流会」
- 5-2 農がある風景を生み出すための農業機会の創出

テーマ3. 居場所

- 3-1 多世代交流・支えあいの居場所づくり
- 3-2 子育て世代を支える「コミュニティカフェ」の開設
- 3-3 地場産業を生かした「地域カフェ」の開設
- 農地を活用した公園・オープンスペースの整備
- 子どもたちが安心して学べる学校づくり

テーマ6.歴史・文化

- 6-1 地域の PR に向けたご当地キャラづくり
- 6-2 地元の職人による地域のものづくり教室
- 6-3 みんなで浴衣を着て「草加音頭」を踊ろう!

テーマ7. 防災・防犯

- 7-1 すばやい避難に向けた避難所等の目印の設置
- 7-2 多世代交流のための防災キャンプの開催
- 7-3 安全なまちを目指した地域の見守り運動
- 7-4 公園や空地を活用した『子ども』×『防災』イベント
- 小型消防車の導入

テーマ8.交通・歩行者空間

- 8-1 道路空間を活用した遊び場の創出
- デマンド交通の導入
- 安全な歩行者空間の整備

子ども・子育て 子

「1. つながり・支え合い」「2. にぎわい・交流」「3. 居場所」に関する取り組み内容

文化•歴史	文	
-------	---	--

活性化·交流 活 防災·防犯 防

移動·交通移

取り組み 番号	取り組み名(仮)	取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
1—1	デーボランティアの 仕組みづくり 福	◎ボランティアに参加するメリットを作り、参加人口を増やすために◎ボランティア参加者にとって、ボランティアの経験値がプラスになるように◎多世代交流による顔の見える関係づくりのために	・ボランティアに参加した人を認定する仕組みや、ボランティアをポイント制にする仕組みをつくる。学生であれば内申点が上がり次の進路へのプラスになり、就職活動の際には履歴書にも記載できる。ボランティアポイントは商品と交換できるようにすることも考えられる。	食堂、お祭り、傾聴、学童、	
1 – 2	リタイア世代による 子 子どもスポーツ教育の支援 福	◎高年者の生きがい、技術継承、先生の休暇 の確保(ワークライフバランス)のために	・リタイア世代による子どものスポーツ教育をボランティアで行う。	小学校、中学校、高校など	高年者で時間のある方が指導 者として
1-3	様々な社会課題の解決に 向けた議論の場づくり 活	◎世代を超えて交流し、若い世代の課題の 解決、学習効果の向上のために	・越境教育の課題解決の場。様々な社会課題に対して、多世代・ 多分野の方々が意見交換できる場を生み出す。	リノベーション施設(空 き家など)を活用する	大学生、専門学生、高校生、小中学生×住民、高年者
行政や 事業者の 取組み	きれいなまちを目指した 夜のゴミ回収	◎単身者・移住者が多くアパートなどゴミ が散らかっている◎ゴミの散乱防止のため	・行政によるゴミ回収を夜に行う。	ごみ捨て場	行政、ゴミ回収業者
2-1	公共空間を活用した 定期的な市場の開催 活	◎買い物に苦労している人が身近な場所で 買い物ができるように◎地域のにぎわいづくりのために	・バイパス以西など、市の中心部までの移動が大変なエリアで、 公民館やコミュニティセンターを活用した定期的な市場を開 催する。		スーパー、個人商店、農家など
2-2	ペットをきっかけにした 地域交流 「おてがるドッグラン」	◎共通の趣味や関心事で交流を深める◎犬を飼いたい人、飼えない人との交流ができる◎犬のストレス発散	「おてがるドッグラン」 ・簡易な移動式ドッグラン ・フェンスと人工芝だけ置いておき、利用者が自由に使う	空き家や空き地、空き駐車場、コミセンなど公共施設の駐車場(使われていない夜間や早朝)	犬を飼っている人、人と交流 したい人、市民の声を聞きた い市の職員
2-3	SNS を活用した 『草加西部地区』の 魅力 PR	◎埋もれたまちの魅力を PR するために ◎草加市のまちを知ってもらう	・まちの小さな変化を Instagram などで公開 ・連鎖的にインフルエンサーを増やす(まちの主役、主人公を増 やそう) ・SNS で若者向けに情報発信する。	インターネット上	まずは地域懇談会の皆さんを つなぐ。次に若い世代に発信
2-4	IT を活用した 公園や空き地の情報発信	◎横のつながりがあるまちにしたい	・空き地、団地の活用のために、IT を活用し、公園などの混雑情報、空きスペースの情報を共有する。 ・集まりたい時にすぐ集まれることは重要なので、施設を柔軟に利用できるようにする。 ・人が集まる場所には Wi-fi を設置する。	コミュニケーションをは かる場所	全ての人
2-5	多世代による スポーツや遊びを通じた 交流会子 温	◎多世代交流のために◎世代間交流による健康増進のために◎地区の知名度向上のために	・多世代で一緒に楽しめるスポーツによる大運動会を開催する。 ルールが簡単で、子どもや障害のある人、言葉がわからない外 国人でも取り組みやすいボッチャやモルックを普及する。・高年者の活動として行っている「輪投げ」のイベントを広げ、 地域の子どもたちにも参加してもらう。そのほか、高年者間で 行われている各種の『遊び』を集結させて、交流祭を開催する。		行政、地域、学生、町会を経由 して子どもたちの参加をうな がす

「1. つながり・支え合い」「2. にぎわい・交流」「3. 居場所」に関する取り組み内容

取り組み					
番号	取り組み名(仮)	取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
2-6	文化交流と 産業振興のための 英会話イベント活 文	◎産業振興◎人とのつながりを深める◎子どもの語学力向上◎孤立した外国人の支援のために	・市在住の外国人が主体となる英語のイベントとして、お店の 接客を英語で行ってもらう。・子どもの英会話の上達にもつながる。来客の向上にもつなが る。孤立している外国人とつながる	カしてもらう	(日本人のお膳立てでなく 外国人が主体になること で、外国人自身の意識も変 わるのではないか)。 ・その他、語学を学ぶ獨協生の 協力を得る。
2-7	各町会の交流に向けた 大盆踊り大会	◎地域交流とより住みよいまちづくりのために	・年間を通して町会の大きな行事と思われる納涼盆踊り大会等 の機会で、各町会間での交流を図る。合同の大盆踊り大会を 開催する。		地域の各団体が合同で実施
2-8	新たなビジネス 創出のための 他分野連携マルシェ	◎交流、新たなビジネスの創出につなげる ために	・アート、音楽、農、食を中心としたマルシェイベントを開催する。	コミュニティセンター、 祭の場	地区の人を募集(クリエイティブ・アート関係者、川上・川下の事業者)
3 – 1	多世代交流・支えあいの 福 居場所づくり 子	◎世代間交流のため◎世代間交流。若いデジタル世代と高齢のアナログ世代の壁を取り払う◎子育てに悩む世代、孤立する高年者、定年後の世代、多国籍の方などの居場所づくりのために	 ・ミニコミセン等、まちの資源を使って放課後の子どもの居場所や、お年寄り等、誰でも集まれる場所をつくる。 ・放課後の子どもの居場所として年配の方やお兄さんお姉さんなどと世代間交流ができると良い。(報酬があるとなお良い) ・その場で出た話(おてがるドッグランなど)を若い人にデジタル回覧板を発信してもらう。 ・地域限定の小さな情報を発信し、訪れる人を増やす。 	ュニティセンター、町会	・軌道に乗るまでは市がコーディネーターとして関わる ・放課後子どもを預かってもらっている保護者は、土日にそこでできることをやる(高年者向けスマホ教室等) ・地域のボランティア、民生委員、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民間事業者など多様な主体
3-2	子育て世代を支える 「コミュニティカフェ」 の開設	◎コミュニティの場所づくりのために	・空き家を活用し、コミュニティカフェを開設する。・自らお金を稼いで持続していくようにする。・初めは市がお手伝いをしつつ、最終的には住民で自走できるような仕組みにする。	空き家、遊休不動産	市、住民
3-3	地場産業を生かした「地域カフェ」の開設	◎地域交流の活発化◎たくさんのテーマを取り込むため	・子ども食堂の進化版として、地域交流が活発な「地域カフェ」を行う。・地場のものを使い、食育にもつなげる。・高年者も元気な時代なので、運営に関わってもらういろいろな世代が集まる場にする。(新田の「つなぐば」などを参考に)	人が集まりやすいところ 空き家など	・協力してくれる人 (声かけを して特技を持つ人を見つけ る。氷川町のチャヴィペル トは参加してくれそう) ・まとめ役として草加市 (すべ てをボランティアで賄う時 代ではない)
行政や 事業者の 取組み	農地を活用した 公園・オープンスペース の整備	◎昔に比べて空き地や農地が減っている◎何もない空き地だが、犬の散歩やバドミントン等で使える	・農地借り上げ公園、空き地(オープンスペース)、広場を継続して確保する。(集まれる、遊べる場づくり)	農家所有地	市
行政や 事業者の 取組み	子どもたちが安心して 学べる学校づくり	◎子どもたちが安心して学べる学校にする ために	・草加は全国的に見ても人口が増えているため、近代的な小中学 校で学び、遊ばせたい	地域の小学校	市、住民、地域の小学校

「4.みどり・景観」「5.農業」「6.歴史・文化」に関する取り組み内容

取り組み 番号	取り組み名(仮)	取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
4 – 1	自 みどりあふれる安全な 歩行者空間づくり 防 移	◎歩いていて楽しい道路づくりのために◎景観の変化を楽しむため◎草加せんべい以外に誇れるものをつくる◎潤いのある景観づくりのため◎コンクリートブロックの倒壊を防ぐため	 ・個人の家の庭木や花・植栽などが、道路に面して植えられる、 又はオープンになることで、緑や花があり、安心して歩ける散 歩道となる。 ・軒先をガーデニングしてまち全体をガーデン化、PR する。 ・各戸の道路境界面は緑化を徹底し、コンクリートブロックを制 限するための意識向上を図る。 (規制は市が行うにしても、市民の意識向上が重要) ・草加の景観的現状を表現すると「色気がない街」。これを打破 し、住んでいる住民が散歩をして楽しいまちにしたい。 		市民、企業
4-2	景観 UP にむけた 地域を巡る ウォーキング運動	◎自然を楽しむため◎まちの良い景観、悪い景観について考えるために◎人とのコミュニケーションや健康のために◎SDGs の視点でまちの景観を考えるために	・きれいな川の流れときれいな空気の中でのんびりウォーキングする。 ・生活排水はきれいにすることが難しいが、呼びかける。 ・地区内の良い景観・悪い景観について、地域住民以外の方から見た視点も取り入れることで、景観の改善・向上に繋げる。 ・散歩をしながら行きたくなる場所があちこちにあれば良い。 ・緑や花を楽しめるように PR する。 (公園にトイレを設置し、花や緑を増やすなどして、歩いて楽しい場所、安心して歩ける場所を PR する)	緑(緑地)の中やきれいな川沿いの道	地元住民のほか、他地域の人や外国人の方など
4-3	各所の緑化運動を 展開した ウォーキングルートづくり	◎地域貢献のために	・地区内の各所で行われている歩道の緑化活動を展開し、遊歩道などに行政が植樹や草花等を設置した場合の管理を地域住民が行うことで、地区内で散歩したくなるような緑豊かな歩行空間を生み出す。	地区内各所	地域のすこやかクラブ有志 ボランティア
5 – 1	農 活 育てた野菜で地域交流 「自給自足バーベキュー交流会」	◎育てた人同士で交流するため◎お互いを知り、満腹になるため◎こども食堂等よりも、抵抗なく気楽に参加できる	 ・市が野菜の種を配って、各自が育てた野菜を持ち寄ってバーベキュー交流会を行う。 ・地区ごとにゴーヤ、キュウリなどを割り振っていろんな方と交流ができる ・野菜の作り手の顔が見える。繰り返すことでコミュニケーションが深まり持続する。 	・自分の家の庭、ベラン	(準備)・種を受け取った人・市の PR として、または情報発信をしたい人が種を配る(バーベキュー)・市が公園を確保する・育てた人とお腹がすいた人
5-2	農がある風景を生み出す ための農業機会の創出 活	◎利用者拡大 (世代、関係者) +魅力アップ	・農業体験農園など、市民農園をさらに広げる運営方法を考える ・景観をさらに改善し、地域の魅力マップをつくる。	管内農地、可能なところ を広く探す	
6-1	地域の PR に向けた ご当地キャラづくり	◎草加をもっと楽しくする	・パリポリくんのサブキャラクターを公募でつくる。	地区内	小中学生、一般の人
6-2	地元の職人による 地域のものづくり教室 活	◎コミュニケーション、地域の発展→防災 にもつながる	・地元のものづくりをしている職人さんが、草加に移り住んでき た方や子育て世代にレクチャーする。	草加市文化会館など	子育て世代、海外からの移住 者
6-3	みんなで浴衣を着て 「草加音頭」を踊ろう! 文	◎日本、草加の文化、産業の伝承のため	・みんなで浴衣を着て「草加音頭」を踊ろう! (一定の年齢以上の市民は皆踊れる。できる範囲のことから始め るのに最適。)	地区内の小学校等	子ども、大人 (50 代以上は学校で習った が、草加音頭を踊れる世代が 少なくなっている)

「7. 防災・防犯」「8. 交通・歩行者環境」に関する取り組み内容 取り組み 取り組み名(仮) 取り組みの目的 取り組み内容 場所 関係者・担い手 番号 ・災害時の一時避難等で活用できる場所(建物等)に目印を付け「災害時の一時避難等で活」自治会を始めとする地域住 ◎災害時の被害を最小限に抑えるため すばやい避難に向けた 防 7 - 1て、平常時から認識しておけるようにする。子ども 110 番の家 用できる場所 (建物等) 民、市、その他建物や場所を所 避難所等の目印の設置 有する企業や団体等 の防災バージョンのようなイメージ。 地域の住民、防災やキャンプ ・防災キャンプをする 柳島グラウンド ◎防災と住民同士の連携の実現 多世代交流のための 7-2に関心のある人 防 防災キャンプの開催 ・ガーディアン・エンジェルスを活用した見守りの目の拡大(ジー駅周辺、学区、町会、自治ー町会、自治会、PTA、商店会、 ◎駅を利用する人、住んでいる人にとって ョイントパトロールの多面的実施) 在宅ワークしているパパママ 会節囲 の安全安心のために 安全なまちを目指した ・地域の高年者による SANPO 隊 (さんぽたい) を結成し、子ども ◎防犯のために 地域の見守り運動 防 7 - 3と一緒に歩いてもらうことで、高年者の健康増進にもつなが ◎健康促進のために ・在宅のパパママによる MIMAMORI 隊 (みまもりたい) を結成し、 登下校時に大人が自宅の前で、子どもを見守る。 ・子育て世代に関心の高い『防災』×『子ども向け』を切り口に「地区に存在する空地や防」地域住民 ◎災害に強いまちづくり、地域住民の交流 して、イベントを企画する。 災広場・公園にテントを「町会活動の延長として 子 公園や空地を活用した の場づくりのために ・古紙を用いて、災害時に役立つ防災グッズを工作する。 張って実施 ◎子育て世代にも町会活動に参加してもら 『子ども』×『防災』 活 7 - 4・普段あまり利用されていない空地や防災広場(一時避難場所・ イベント うために 防 町会本部として利用されている) について、多目的な利用によ り「交流の場」として活用する。(子ども向けのイベント、テン トを張って青空ランチなど) 草加八潮消防組合 ・狭い道での消火活動が可能となる、消防自動車の軽車両を導入「市内」 行政や ◎狭小道路がある地域の防災対策のために 小型消防車の導入 する 事業者の 取組み ・4~5m 道路は一方通行とし、ハンプにより車道を抑制する。街 住宅街の細い道路(暗渠 各住戸の接道面の緑化など、 道路空間を活用した ◎緑化による潤いの創出と交通安全のため 8 - 1路樹を植えて時間帯で交通規制し、子どもたちが活発に遊べるなど歩行者優先の通路を民間の取り組みだけでは限界 遊び場の創出 ◎子どもの遊び空間の確保のため 自 空間にしたい。 中心に) がある ・デマンド交通、低額で利用できるタクシーを導入する。 市内 企業の協力、ボランティア、 ◎高年者や障がいのある方をはじめ市民の 行政や 行政のバックアップ 事業者の デマンド交通の導入 移動が楽になるように 取組み ◎安心・安全に暮らしていくために ・段差がない道、歩行困難者でも安全に過ごせるバリアフリーな「市内」 行政、民間事業者 行政や ◎安心して歩けるまちになることで、活性

道をつくる。

化や定住など、人が増えるように

事業者の

取組み

安全な歩行者空間の整備